

1-4 中国思想中国哲学

研究・教育活動の概要と特色

中国思想中国哲学専攻分野における研究活動は、中国の伝統文化を政治、経済、思想、宗教、歴史、文学、科学などが緊密に関係し合う有機的統合体として捉えるという認識を前提としつつ、その思想的宗教的側面を構成する諸現象の歴史的位置や普遍的意味を探究するものである。またその教育活動は、狭い意味においては、如上の研究活動を遂行するうえでの確乎とした学問的基盤を築くことを目的とし、広い意味では、中国の伝統文化に対する知的関心ないし人文学的教養を培うことをめざしつつ、中国古典文(いわゆる漢文)に対する読解力の向上や中国思想に関する歴史的事実および理論的特色の修得のための訓練を、その中心に据えてすすめられる。

本専攻分野の前身である中国哲学講座の初代教授武内義雄ならびに第二代教授金谷治は、文献学的思想史学的手法により、中国の戦国時代から秦漢期にいたる諸子百家の思想、とりわけ儒道両思想の展開を解明し、また第三代教授中嶋隆藏は、武内・金谷の手法を洗練させつつ、その研究対象を中国中世における儒仏道三教へと広げ、その実態をあきらかにした。2011年度現在の教員は、南宋後半から清代中期にいたる時期の知識人の思想を三教交渉の視点から分析するとともに明代の科挙に関わる諸事象を思想史のおよび社会史的に考察する教授三浦秀一、敦煌出土の文献などを駆使しつつ唐代の禅思想を中心に中世の宗教思想を解明する准教授齋藤智寛(2008年4月、京都大学人文科学研究所から着任)の2名である。ただし、2007年4月から2010年3月までは、元朝の首都である大都の都市的性格を制度史もしくは社会史的観点から考究する渡辺健哉が助教の任に就いていた。以上の3名は、それぞれにその研究分野を異にするものの、いずれも中国学の伝統的手法に依拠しつつ研究をおこなう点では、認識を共通させる。

このように、本専攻分野における研究・教育活動の特色は、歴代教授に一貫する思想史学的方法と、各人によって相異なる研究関心とから察知させられるとおり、中国古典文・現代文の読解という基礎的学力の育成・錬磨を大前提としつつも、研究に従事する者としての自主性を最大限に尊重する点に存する。学生・院生の総数は、研究室の創設以来、20名以下の数で安定しており、上記のとおりの方針のもと、いわば少人数教育の学習環境下で研鑽を積んだ卒業生が、現在、斯界において幅広く活躍している。

組織

1 教員数（2011年9月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：三浦秀一

准教授：齋藤智寛

助教：

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
6	0	3	2	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	5	0	1
08	1	1	1
09	2	0	0
10	2	2	1
11	0	0	0
計	10	3	3

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2006～2010年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	0	0
08	1	0	1
09	0	1	1
10	0	0	0
11	0	0	0
計	1	1	2

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

高田哲太郎、2008年度、『鬼谷子』の研究

審査委員：教授・三浦秀一(主査)、教授・花登正宏、教授・佐竹保子、教授・熊本 崇、准教授・齋藤智寛

手代木有兒、2009年度、清末中国における西洋体験と文明観

審査委員：教授・三浦秀一（主査）、教授・花登正宏、教授・熊本 崇

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	4	0	0	0	4
08	0	0	0	0	0
09	1	0	0	0	1
10	1	0	0	0	1
11	1	0	0	0	1
計	7	0	0	0	7

* 2011年度は9月末までの数字。ただし以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	1	3	0	0	4
08	0	1	1	0	2
09	0	0	2	0	2

10	0	1	3	0	4
11	0	1	2	0	3
計	1	6	7	0	16

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

高田哲太郎、「『鬼谷子』の「道術」」、『文化』、第71巻1・2号、2007年

尾崎順一郎、「戴震の「一貫」解をめぐる」、『集刊東洋学』、第97号、2007年

尾崎順一郎、「焦循の「一貫」解をめぐる」、『日本中国学会報』、第63集、2011年(10月刊行)

高橋睦美、「『老子指帰』の思想について」、『集刊東洋学』、第97号、2007年

高橋睦美、「『老子指帰』の思想的位置」、『文化』第71巻3・4号、2007年

高橋睦美、「『老子指帰』と王弼『老子』注における差異」、『日本中国学会報』(日本中国学会)第61集、2009年

高橋睦美、「『老子指帰』思想再考 - 後漢期の生成論との比較から - 」、『集刊東洋学』、第104号、2010年

(2) 口頭発表

高橋睦美、「『老子指帰』の思想史上の位置」、東北中国学会第56回大会、2007年5月27日

高橋睦美、「『老子指帰』の思想的特徴」、日本中国学会第59回大会、2007年10月7日

高橋睦美、「漢魏六朝期における老子解釈の諸相と連関」、第163回中哲読書会(東北大学)、2009年7月18日

高橋睦美、「有無の諸相 生成論における道の記述」、東北中国学会第59回大会、2010年5月30日

高橋睦美、「漢代より魏に至る『老子』解釈の諸相と有無の論」、第165回中哲読書会(東北大学)、2010年6月26日

尾崎順一郎、「焦循の一貫解について」、東北中国学会第56回大会、2007年5月27日

尾崎順一郎、「焦循の一貫解とその周辺」、2007中日博士生学術研究会、2007年

7月21日

尾崎順一郎、「章学誠の「経世」観について」、東北中国学会第57回大会、2008年5月25日

尾崎順一郎、「程瑶田の学問観について」、東北中国学会第60回大会、2011年5月29日

小早川裕喜、「古代中国における「勢」概念の諸相」、東北シナ学会二月例会、2009年2月19日

渡邊秀一、「蘇軾・蘇轍間における「道」解釈の異同について」、第163回中哲読書会（東北大学）、2009年7月18日

渡邊秀一、「蘇軾・蘇轍における「道」について」、東北シナ学会二月例会、2011年2月16日

宣芝秀、「伊藤仁斎の「忠恕」再考」、第166回中哲読書会（東北大学）、2010年7月23日

宣芝秀、「伊藤仁斎の人間観について」、東北シナ学会二月例会、2011年2月16日

豊島ゆう子、「黄宗羲の思想 - 劉宗周理解から『明儒学案』編纂の立場へ」、第167回中哲読書会（東北大学）、2011年8月12日

金子由佳、「『悟真編』とその注釈者翁葆光の思想」、第168回中哲読書会（東北大学）、2011年9月30日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

大学院生1名（2008年9月から2010年7月まで、中国上海・復旦大学）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
----	----	-----	---

07	0	0	0
08	0	0	0
09	2	0	2
10	2	0	2
11	0	0	0
計	4	0	4

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	1	1
08	1	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	1	1	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

なし

7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

8 客員研究員の受け入れ状況

2011年4月から、二松学舎大学教授・田中正樹氏。

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『集刊東洋学』（定期刊行物：東洋史・中国文学研究室との共同による中国文史哲研究会、年2回刊行）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007年度：

(国際交流準備会)「国科会」中文学門訪日団(台湾)との交流 2007年4月
2日

(国際シンポジウム)丁茶山の時代の韓国・日本学術史、2007年8月31日・
9月1日(日本思想史研究室との共催)

(研究集会)応用科学史学研究会(第4回)、2007年9月28日

(研究集会)応用科学史学研究会(第5回)、2007年12月25日

2008年度:

(特別座談会)清代思想史研究の現状と課題、2008年7月16日

(ワークショップ)応用科学史学研究会(第1回)、2008年8月27日

(ワークショップ)応用科学史学研究会(第2回)、2008年4月1日

2009年度:

(国内学会)第58回東北中国学会大会、2009年5月30・31日

(国際学術講演会)「晚明三教合一研究 - 方法論的再思考」2009年7月2日

(ワークショップ)応用科学史学研究会(第3回)、2009年7月11日

(国際シンポジウム)第5回科学制と科学学国際シンポジウム、2009年8月
27・28日(北海道大学文学研究科中国化学講座との共催)

(国際学術講演会)「中国における性心理学研究の新動向」2009年10月16日

(研究集会)応用科学史学研究会(第6回)、2009年12月21日

2010年度:

(研究集会)応用科学史学研究会(第7回)、2010年9月24日

(研究集会)応用科学史学研究会(第8回)、2010年9月25日

(国際学術講演会)「地域性と時代性 - 数年来の明清思想研究 - 」、
2010年10月1日

2011年度:

(ワークショップ)応用科学史学研究会(第4回)、2011年8月4日

(ワークショップ)応用科学史学研究会(第5回)、2011年8月11日

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2007年度:

第160回中哲読書会(2007年11月16日)

片岡純也:五斗米道における治療行為とその宗教的意味

池田千晶:米芾における平淡と天真

渡邊秀一:蘇轍『老子解』における「道」について

加藤祐一：朱熹の孔子観—『四書集注』を中心に—

綿谷浩太郎：佐藤一斎の思想について—『伝習録欄外書』をてがかりに—

2008 年度：

特別座談会（2008 年 7 月 16 日）

清代思想史研究の現状と課題（講師：吉田純、水上雅晴）

第 161 回中哲読書会（2008 年 7 月 19 日）

小早川裕喜：古代中国における「勢」について—統治論を中心に—

第 162 回中哲読書会（2008 年 11 月 7 日）

松田果奈：『真誥』の修道論について

2009 年度：

国際学術講演会（2009 年 7 月 2 日）

晚明三教合一研究 - 方法論的再思考（講師：魏月萍）

第 163 回中哲読書会（2009 年 7 月 18 日）

高橋睦美：漢魏六朝期における老子解釈の諸相と連関

渡邊秀一：蘇軾・蘇轍間における「道」解釈の異同について

第 164 回中哲読書会（2009 年 9 月 26 日）

金子由佳：『悟真篇』の思想

豊島ゆう子：黄宗羲の思想

国際学術講演会（2009 年 10 月 16 日）

中国における性心理学研究の新動向（講師：呉震）

2010 年度：

第 165 回中哲読書会（2010 年 6 月 26 日）

高橋睦美：漢代より魏に至る『老子』解釈の諸相と有無の論

第 166 回中哲読書会（2010 年 7 月 23 日）

宣芝秀：伊藤仁斎の「忠恕」論再考

国際学術講演会（2010 年 10 月 1 日）

地域性と時代性 - 数年来の明清思想研究 - （講師：銭明）

第 167 回中哲読書会（2010 年 11 月 6 日）

中島彰宏：『天主実義』における中西問答について - 西士利瑪竇の立場を
中心に -

佐藤里奈：戴震の思想 - 孟子字義疏証における欲望と秩序 -

2011 年度：

第 168 回中哲読書会（2011 年 8 月 12 日）

豊島ゆう子：黄宗羲の思想 - 劉宗周理解から『明儒学案』編纂の立場へ -
第 169 回中哲読書会（2011 年 9 月 30 日）

金子由佳：『悟真編』とその注釈者翁葆光の思想

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

本専攻分野における組織としての研究・教育活動は、研究室の構成員とりわけ大学院生各自が遂行しようとする研究の支援を第一の目的におこなわれる。その形態は、(1) 本専攻分野単独のものと、(2) 中国の伝統文化に対する上記「概要と特色」の項に示した捉え方から必然的に導かれるとおり、文学研究科における中国学の隣接研究室である中国語学中国文学および東洋史学の二専攻分野との共同によるものに分けられる。その前者(1)に関しては、全国的もしくは国際的な学会での研究発表や学術誌への論文投稿、およびそれを前提とした、研究室主催の論文構想発表会を中心として、諸外国から来訪した研究者と留学生との交流をも含み、後者(2)に関しては、学術雑誌である『集刊東洋学』の刊行、およびそれに関連する諸行事としての投稿論文の査読、雑誌の合評会などや、三専攻分野の教員等を代表とする科研費関連の研究会、国内外の研究者を招いての学術講演会がある。以下、過去 5 年間の活動を(1)・(2)それぞれについて記しつつ、点検と評価をあわせておこなう。

(1) 全国学会である日本中国学会での本専攻分野大学院生による発表数が 2 回、東北中国学会での発表数が 7 回、とその回数は多くはないが、大学院生の数から判断すればやむを得ない。台湾・台北市で開催された 2007 中日博士生学術研討会における国際学会での発表もあるのだが、やはり、国外における学会発表を含めて、いわゆる他流試合の機会を増やす必要がある。論文の公刊に関しては、大学院生を編集委員とした『集刊東洋学』（査読有り）だけではなく、全国的な学会誌への投稿も増やさなければならない。2009 年度刊行の『日本中国学会報』に院生の論考が掲載されたことは、その他の構成員にとって大いに刺戟になったはずであり、2011 年 10 月刊行の同誌に、当研究室の大学院生による論文が掲載される。2009 年度後半から、(中国)清華大学日本語学科および台湾大学日本語学科の学部学生が、特別聴講学生として研究室に配属になった。その前者は半年、後者は 1 年間、研究室の構成員と日常的な交流を持ち、学部学生に対しては異文化交流のえがたい経験となり、大学院生に対しては、語学的な交流の良い機会となった。また 2010 年 7 月より研究室のウェブサイトが運用を開始したことをも特記しておく。

(2) 『集刊東洋学』2007 年 5 月発行の第 97 号から 2011 年 5 月発行の第 105 号まで、ただし記念号である 100 号は除く 8 冊の雑誌において、中国思想分野の論説は計 8

本、そのなかで本専攻分野の大学院生の論文は2本である。院生の投稿数が減少傾向にあるのだが、その理由に関しては、中国への長期留学や、博士論文の執筆など、個別論文の作成までには手が回らないといった事情がある。とはいえ、自身の研究成果を発表する上で、もう少し貪欲な姿勢が見られても良いはずであり、そうした方向への指導も必要であろう。五年前に発足した応用科学史学研究会による研究集会、ワークショップがそれに相当する。各会は10~20名の専門家が参加し熱心な討議が交わされた。台湾、中国、シンガポールの中国学研究者(劉海峰、鄧洪波、李兵、魏月萍、吳震、陳雯怡、錢明各氏)、あるいは北海道大学・名古屋大学の清代學術史の専門家(水上雅晴、吉田純両氏)を招いて講演会等を開催した。

次ぎに教育活動であるが、そのなかで学部教育は、基礎的学力を身につけ、さらにそれを発展させて卒業論文の執筆へと進めるようカリキュラムを組み、また研究室独自の勉強会による補完のもと、学習効果の向上をはかっている。学部2年次向けの基礎講読や概論の授業には、漢文の読解力を必須とする日本学やインド学等を専修する学生や、教員免許(国語)取得の必要から履修している教育学部等の学生も受講しており、文学部の他専修と同様、本専修もまた教育活動をととして文系諸学部の学部生教育に貢献している。なお、2010年度からは、学部生向けの新しい授業として演習の時間を創設した。基礎講読での学習を終えた学生に対し、中国古典文の読解能力をさらに高めることを意図したものである。

大学院教育に関しては、博士論文の作成を目標とした論文作成指導として、各自の研究能力を向上させるような演習の時間を設け、またそこでの不足を補うべく研究室主催の研究会を定期的にひらき、さらには教員による個別指導をおこなっている。大学院の後期3年を経てただちに博士学位請求論文を提出できる者がいないことは、本専攻分野の学問上の性格に関係する事柄でもあり、一概に否定的な評価は下せないのだが、六年の在学期間中に多くの大学院生が学位を取得できるよう、今後も可能な限り指導に努めたい。

教員の研究活動(2007~2011年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

三浦秀一「牧民と神 - 皆川淇園『名疇』の統治者論とその思想基盤」、『茶山学』、第11号、茶山文化財団(韓国)、pp.247-278(ハングル版)・pp.281-313(日本語版)、2007年

三浦秀一「王門朱得之の師説理解とその莊子注」、『中国哲学』、第36号、北海

- 道中国哲学会、pp.79-130、2008年
- 三浦秀一「人已両忘 - 陸西星『道德玄覽』を論じて王道『老子億』に遡る」、『集刊東洋学』、第100号、中国文史哲研究会、pp.229-249、2008年
- 三浦秀一「陸西星及其老子注」、『全真道与老莊学国際學術研討会論文集』、熊哲基、華中師範大学出版社、pp.636-650、2009年
- 三浦秀一「明代科挙“程論”管窺」、『科学学の形成与発展』、劉海峰、華中師範大学出版社、pp.372-392、2009年
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」(中国語版)、『国際科学学研討会 - 第五屆“科挙制与科学学”學術研討会 - 報告論文集』、北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座、pp.41-55、2009年
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」(日本語版)、『集刊東洋学』、第103号、中国文史哲研究会、pp.41-61、2010年
- 三浦秀一「王門朱得之の師説理解及其《莊子》注」、『台日学者論經典註釈中の語文分析』、鄭吉雄、台湾学生書局、pp.381-417、2010年
- 三浦秀一「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、『科挙与科学文献国際學術研討会』、天一閣博物館、上海書店出版社、pp.198-213、2011年
- 齋藤智寛「中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館蔵「敦煌文献」漢文部分叙録補」、『敦煌写本研究年報』、創刊号、西陲發現中国中世写本研究班、pp.27-52、2007年
- 齋藤智寛「『梵網經』と密教 - S2272V「金剛界心印儀」の翻刻紹介にちなんで」、『敦煌写本研究年報』、第2号、西陲發現中国中世写本研究班、pp.23-46、2008年
- 齋藤智寛「伯希和2462《玄言新記明老部》初探 - 《老子》的義疏學」、『敦煌学』、第27輯、南華大学敦煌学研究中心、pp.381-395、2008年
- 齋藤智寛「悟れなかった人々 - 禅律双修者の祈りと救い - 」、『東方学報』京都、第82冊、京都大学人文科学研究所、pp.69-117、2008年
- 齋藤智寛「禅宗“心地”思想的演变 - 兼談《壇經》和《曹溪大師伝》的心性論」、『仏教与中国伝統文化 - 楊曾文先生七秩賀寿文集』、宗性、中国社会科学出版社、pp.196-210、2009年
- 齋藤智寛「臺のない鏡 - 『六祖壇經』呈心偈考 - 」、『集刊東洋学』、第101号、中国文史哲研究会、pp.43-62、2009年
- 齋藤智寛「禅宗と仏舍利信仰 - 『宝林伝』摩拏羅章に見える阿育王塔説話を手掛かりとして - 」、『集刊東洋学』、第104号、中国文史哲研究会、pp.41-60、

2010年

齋藤智寛「荷沢神会の見性論とその変容」、『三教交渉論叢続編』、麥谷邦夫、道氣社、pp.193-217、2011年

渡辺健哉「元の大都の形成 - 「中国の王権と都市」によせて」、『中国の王権と都市 - 比較史の観点から』大阪市立大学大学院都市文化研究センター、pp.65-82、2007年

渡辺健哉「『永楽大典』所引の『元史』について」、『13,14世紀東アジア史料通信』、第9号、pp.9-16、2009年

渡辺健哉「元代科学的《策問》与《对策》」、『考試研究』、第5巻第2期、pp.100-114、2009年

渡辺健哉「科举制よりみた元の大都」、『「宋代中国」の相対化 宋代史研究会研究報告集第9集』、汲古書院、pp.183-210、2009年

渡辺健哉「元代科举礼儀小考 - 以《永楽大典》所引《経世大典》為線索 - 」、『国際科学学研討会 - 第五屆“科举制与科学学”學術研討会 - 報告論文集』、北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座、pp.215-224、2009年

1-2 著書・編著

なし

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

齋藤智寛（翻訳）「天空の文字—道教の符図文献とその分析—」、『中国宗教文献研究』、臨川書店、pp.265-291、2007年

齋藤智寛「それぞれの浄土」、『人文』、京都大学人文科学研究所、pp.44-45、2007年

齋藤智寛「2007年“仏教文献与文学”会議將於日本召開」、『2007 敦煌学国際ネットワーク委員会通信』、上海古籍出版社、pp.153-154、2007年

齋藤智寛「温にして厲 - 『東アジアの宗教と文化』を読む」、『東方』第340号、東方書店、pp.28-30、2009年

齋藤智寛「從客觀史実到所描写の事实 - 日本学者禅学研究的歴史文献学方法」、『漢語仏学評論』第1輯、上海古籍出版社、pp.115-131、2009年

齋藤智寛「石碑拓本の世界」、『東北大学広報誌 まなびの杜』第55号、裏表紙、2011年

渡辺健哉「書評 久保田和男著『宋代開封の研究』」、『史学雑誌』、第117巻

第 8 号、史学会、pp.96-105、2008 年

1-4 口頭発表

- 三浦秀一「四書・莊子・科挙」、東アジアの經典解釈における言語分析第 2 回国際学術シンポジウム、2007 年 7 月 21 日（台湾台北市・台湾大学）
- 三浦秀一「牧民と神」、国際シンポジウム「丁茶山の時代の韓国・日本学術史」、2007 年 8 月 31 日（東北大学）
- 三浦秀一「方氏家学と明末清初の思潮」、ワークショップ「方以智とその時代」、2007 年 9 月 13 日（台湾台北市・中央研究院中国文学哲学研究所）
- 三浦秀一「明代思想研究の愉しみ」、東北シナ学会 4 月例会、2008 年 4 月 12 日（東北大学）
- 三浦秀一「陸西星及其老子注」、全真道与老莊学国際学術研討会、2008 年 4 月 19 日（中国武漢市・華中師範大学）
- 三浦秀一「明代の科挙における「程論」について」、応用科挙史学研究会第 1 回ワークショップ、2008 年 8 月 27 日（東北大学）
- 三浦秀一「明代科挙“程論”管窺」、第四届科挙制与科挙学研討会、2008 年 10 月 14 日（中国天津市・天津市教育招生考試院）
- 三浦秀一「明代科挙策題初探」、応用科挙史学研究会第 2 回ワークショップ、2009 年 4 月 1 日（東北大学）
- 三浦秀一「明代科挙関連文献に関する二、三の「新」知見」、東洋大学中国学会、2009 年 7 月 25 日（東京・東洋大学）
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」、第五回科挙制与科挙学研討会、2009 年 8 月 27 日（札幌市・北海道大学）
- 三浦秀一「《天一閣蔵明代科挙録選刊・会試録》試補」、2009 年 11 月 3 日（中国廈門市・廈門大学）
- 三浦秀一「明末清初期《四書大全》改訂的潮流与世風之变化」、第三届中国經学国際学術研討会、2009 年 11 月 8 日（中国廈門市・白鷺洲大酒店）
- 三浦秀一「再談策論的魅力」、応用科挙史学研究会第 6 回研究集会、2009 年 12 月 21 日（東北大学）
- 三浦秀一「明代中期の郷試考官と「副榜挙人」」、応用史学研究会第 7 回研究集会、2010 年 9 月 24 日（東北大学）
- 三浦秀一「郷試考官としての林光と王守仁」、応用史学研究会第 8 回研究集会、2010 年 9 月 25 日（東北大学）

三浦秀一「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、科学与科学文献学国際学術
研討会、2010年12月19日(中国寧波市・寧波大酒店)

三浦秀一「明朝嘉靖期の科学と王門欧陽徳の学問」、東北シナ学会5月例会、2011
年5月14日

三浦秀一「郷試考官に招かれた「進士教職者」」、応用科学史学研究会第4回ワ
ークショップ、2011年8月4日(東北大学)

三浦秀一「程文の代作と「二業合一」論」、応用科学史学研究会第5回ワークシ
ョップ、2011年8月11日(東北大学)

三浦秀一「担任郷試考官的「進士教職」」、第八屆科学与科学学国際学術研討会、
2011年9月25日(中国武漢市・武漢大学)

齋藤智寛「大乘菩薩戒の道 - 『梵網經』と東アジア仏教」、第四回 TOKYO 漢
籍 SEMINAR、2008年3月8日(東京・学術総合センター)

齋藤智寛「無臺明鏡照心地 - 《六祖壇經》的偈頌及其心性論」仏教文献与文学国
際学術研討会、2008年10月24、25日(台湾高雄・仏光山国際会議庁)

齋藤智寛「仏性を見るということ 唐代禅宗の実践」、第四屆中日仏学会議、2010
年10月24日(中国北京市・中国人民大学)

渡辺健哉「元の大都における科学儀礼について」、東北中国学会大会(第56回)、
2007年5月27日(山形・蔵王温泉)

渡辺健哉「高麗人の見た元の大都 - 高麗出身進士の史料をてがかりに」、応用科
学史学研究会第4回研究集会、2007年9月28日(東北大学)

渡辺健哉「元代皇帝の居所について」、宋代史談話会(第109回)、2008年4月
26日(大阪市・大阪市立大学)

渡辺健哉「元の大都における祭祀施設について」、東北中国学会大会(第57回)、
2008年5月25日(北海道小樽市・朝里クラッセホテル)

渡辺健哉「元代の科学における「策問」と「対策」」、応用科学史学研究会第1
回ワークショップ、2008年8月27日(東北大学)

渡辺健哉「關於元代科学的“策問”与“对策”」、第四屆科学制与科学学研討会、2008
年10月14日(中国天津市・天津市教育招生考试院)

渡辺健哉「元代における兩都巡幸制について」2008年度九州史学会大会、2008
年12月15日(福岡市・九州大学)

渡辺健哉「元代科学儀礼小考 - 『永楽大典』所引『經世大典』をてがかりに - 」、
応用科学史学研究会第2回ワークショップ、2009年4月1日(東北大学)

渡辺健哉「元代の科学儀礼」、比較都市文化史研究会・第121回宋代史談話会、

2009年6月13日(大阪市・大阪市立大学)

渡辺健哉「元大都の宮殿建設」、紀元元大都国際学術研究会、2009年7月29日(中国北京市・蟹島緑色生態度假村)

渡辺健哉「元代科学礼儀小考 - 以《永楽大典》所引《経世大典》為線索 - 」、第五回“科学制と科学学”国際シンポジウム2009年8月27日(札幌市・北海道大学)

2 教員の受賞歴

なし

教員による競争的資金獲得(2007~2011年度)

(1) 科学研究費補助金

2007年度:

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科学答案に関する基礎的研究」(研究代表者、390万円(直接経費))

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国学術史及び思想史の研究」(研究代表者、100万円(直接経費))

2008年度

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科学答案に関する基礎的研究」(研究代表者、320万円(直接経費))

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国学術史及び思想史の研究」(研究代表者、100万円(直接経費))

2009年度

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科学答案に関する基礎的研究」(研究代表者、210万円(直接経費))

2010年度

三浦秀一「科学文献による明代中国の思想史と社会史」(研究代表者、380万円(直接経費))

2011年度

三浦秀一「科学文献による明代中国の思想史と社会史」（研究代表者、480万円（直接経費））

齋藤智寛「『壇経』の再発見写本を中心とした六祖慧能関係資料の文献学的思想史的再検討」（研究代表者、220万円（直接経費））

（２）その他

2009年度

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵の拓本資料の基礎的研究」（東北大学総長裁量経費・若手研究者萌芽研究育成プログラム、200万円）

2010年

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵常盤大定収集拓本の研究と公開」（東北大学文学研究科研究科長裁量経費、30万円）

教員による社会貢献（2007～2011年度）

三浦秀一：仙台第一高等学校模擬授業、2008年11月14日

渡辺健哉：岩手県立盛岡北高校模擬授業、2007年12月8日

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

三浦秀一：

日本道教学会（評議員・08年から理事）

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

東北中国学会（幹事）

日本中国学会（評議員・将来計画検討委員会委員）

齋藤智寛：

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

教員の教育活動

（１）学内授業担当（2011年度）

1 大学院授業担当

三浦秀一

1学期：中国思想中国哲学研究演習（『文史通義』思想研究）

：中国思想中国哲学研究演習（中国思想研究上の諸問題1）

2学期：中国思想中国哲学特論（科学文献による明代思想史）

：中国思想中国哲学研究演習（中国思想研究上の諸問題 2）

齋藤智寛

1 学期：中国思想中国哲学特論（中国仏教史籍略論）

：中国思想中国哲学研究演習（中国思想研究上の諸問題 1）

2 学期：中国思想中国哲学研究演習（『円覚経』注釈書講読）

：中国思想中国哲学研究演習（中国思想研究上の諸問題 2）

横手 裕（非常勤講師・東京大学大学院文学研究科准教授）

集中講義：中国思想特論（道教と仏教）

2 学部授業担当

三浦秀一

3 セメ：中国思想概論（清末民国初期思想概説）

：中国思想基礎講読（中国思想文献読解・初級 1）

4 セメ：中国思想概論（中国近世前期思想概説）

：中国思想基礎講読（中国思想文献読解・初級 2）

5 セメ：中国思想演習（『文史通義』の思想）

6 セメ：中国思想各論（科挙と明代思想）

齋藤智寛

1 セメ：人文社会総論（担当日 7 月 1 日）

5 セメ：中国思想各論（中国仏教史籍入門）

：中国思想演習（『論語』注釈書講読）

6 セメ：中国思想演習（近代漢語思想資料講読）

：中国思想演習（唐代仏教典籍講読）

横手 裕（非常勤講師・東京大学大学院文学研究科准教授）

集中講義：中国思想各論（道教と仏教）

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

（2）他大学への出講（2007～2011 年度）

三浦秀一：

2007 年度～2009 年度（宮城教育大学）

2008 年度（名古屋大学）

2009 年度（東洋大学）

2010 年度（九州大学）

渡辺健哉：

2007 年度（山形女子短期大学）